

金融システム研究フォーラム 概要

第 43 回 2011.5.13 (金)

今回は東京大学の田中亘氏から、“Alternative Procedures for Bankruptcy of Financial Institutions: Based on Scott et al., Ending Government Bailouts As We Know Them (Hoover Institutions Press, 2009)”と題する報告を受けて討議した。

2008 年以降の Bailouts は“huge amounts of taxpayer dollars”と“heavy involvement of the federal government ... in ... private sector”をもたらし、“American people are clearly upset”した。“The people who created the problem should pay a penalty instead of being bailed out by the taxpayers”と考えて、Bailouts に代わる解決策を探り、“How do we make failure tolerable?”という論点に焦点を合わせて開催された大規模かつ著名なコンファレンスの議事録のうち、金融機関(とくに、systemically important financial institutions, SIFIs)の破綻処理に焦点を合わせた 2 論文を中心に取り上げた。第 9 章の Kroener の expanding FDIC-style resolution authority の主張と、第 11 章の Jackson の SIFI s (あるいは金融機関一般)に適合するように倒産手続に特別ルール (“Chapter 11F”) を設けたうえで SIFIs の破綻処理も法的倒産手続で行うべきだという主張の対比である。

日本では、「所管」という表現に象徴される「縦割り行政」に慣れ親しみ、(大型)金融機関の破綻などという「想定外の事態」の発生を予防し、発生した場合にもそれが「金融危機」などの深刻な事態に展開しないことを政府(所管庁)に期待し、政府を「最後の拠り所」としてきた。このため、コトが起こると、「政府(所管庁)は何をしているのか・・・」と非難と期待が所管庁に集中する傾向が強い。「そんなことは無理な注文だし、危険で高くつく・・・」と考える声が表面化することは稀だし、そのように考える人たちがコンファレンスを開くなどということは、少なくとも当分の間は期待できそうにない。当然、政策のコストが強く意識されることもほとんどない。この点は、前世紀末の「金融危機」を思い出せば明白だし、その後も状況にほとんど変化はない。

この書物の最初の 3 章の著者は、それぞれ、George P. Shultz, Paul Volker, Nicholas F. Brady であり、著名な経済学者、法学者、実務家が多数参加して活発な議論を展開している。このようなコンファレンスが開催されたこと、その議事録が刊行されていること、その内容の豊富さ、さらにこのような視点からの活発な議論が展開されていることのいずれについても、日本ではほとんど知られていないし、紹介されてもいない。金融機関の破綻処理を、行政機関に任せるのではなく、裁判所で倒産手続に従って行うべきだ、という発想自体が日本ではほとんど耳にしないものである。「そんなことになったら、裁判所が困るさ・・・」

という解説がありそうだが、その点も含めて、興味深い視点だろう。

経済学と破綻処理の実態の双方に詳しい法学者である田中さんをお願いして、まず、「背景となる法制度」について簡単に紹介していただき、そのうえで、Kroener と Jackson の 2 論文に沿って論点を紹介していただき、さらに、Dodd-Frank Act(2010 年 7 月)を含めたその後の展開についても紹介していただいた。

所管庁と同時に裁判所の処理・対応能力が話題になり、Lehman Brothers の破綻処理のケースをめぐる、議論は錯綜しつつも大いに盛り上がった。当然のことながら、多くの参加者の頭には日本の所管庁と裁判所のことが浮かんだはずであるが、大きな話題とはならなかった。関連機関の現状（および今後？）や関連情報の入手可能性などの点で比較検討への食欲があまり湧かなかったためだろう。

金融機関の破綻処理方法の重要な選択肢として裁判所を通じる倒産手続きが存在することに改めて気づかされた実り多い会合であった。「倒産法制についてほとんど無知な参加者が多いので・・・」という注文に応じたメモまで作成し、複雑な issues を要領よく整理して解説していただき、議論の中心としても活躍していただいた田中さんに深謝します。